

LUCHARIS

2020年秋から中華街の自動販売機横のゴミ箱にタピオカのゴミが分別されず放置されている問題から「捨てる人だけに責任があるのか」と考え、神大みなとみらいキャンパスの自動販売機ポスターのデザイン作成を始め、NPO法人や市内の企業、大学と協力し現在も活動を続けている学生団体。
現在は他大学含めメンバーが10人を超え、活動を広げている。

社会のせい！と決めつけるのではなく、自分のせい？と問いかけていきたい。



知るために行動する
ルカリスの活動を振り返る

強制労働、環境破壊、性差別。

あなたはこのような社会課題を聞いてどのような場面を思い浮かべるでしょうか？
貧困は過酷で可哀想、フェアトレード製品は高価で特別、といったものでしょうか。
ひとりひとり見てきたもので答えはかなり違います。

しかしその答えの要因は、先入観やあなたの周りにある情報だったりします。

実は世界の貧困率は減少傾向にあることがデータとして示されていたり、

日本からの廃棄物がゴミ拾いで生活費を稼ぐ子どもに影響していたり。

情報は時に残酷で、私たちの考え方や行動に無意識的に影響を与えています。

わたしたちLucharisは、このようなあらゆる意図された情報や固定観念を取り払い、
隠された真実やその根本原因を自ら探り、解決のために何が出来るか考え行動するために
神奈川大学の大学生2人が立ち上げた学生団体です。

2021 REPORT 地球資源会議



毎日必ず出る「ゴミ」によって引き起こされる問題について、NPO、企業、大学などさまざまな立場のスピーカーにより話を伺い、参加者同士で理解を深めたLucharis初のオンラインイベント。実は日本は、世界でプラスチック排出量が2番目に多い国として知られている。エシカルやSDGsといった考え方が浸透しつつある昨今、現状が解決に向かっているのか考える機会が少ないことを課題意識として捉え、学生や社会人まで幅広い方を対象に対話を行った。

豊田直之

NPO法人海の森・山の森事務局理事長

はじめに豊田さんご自身が撮影した美しいサンゴ礁の写真を見せていただいた。その美しい光景とは裏腹にゴミがサンゴに絡まって死んでしまうことや、海底には多くのゴミが沈んでしまっている現状がある。他方、ドイツの川ではペットボトルやレジ袋はほとんど存在しない。デポジット制で、使用済みのペットボトルをお金に還元できるシステムなどがあり、環境に配慮した工夫がなされている。

世界で毎年800万トンのプラスチックゴミが海に捨てられており、プラスチックが細かく砕けたマイクロプラスチックに石油からできた有害物質が吸い付き、それを魚が食べ、私たちの口にも運ばれている。私たちがしたことが必ず私たちのもとに戻ってくるのである。

みんなができる活動として、毎月15日（ごみ3...5×3=15）全国ごみ拾いの日に、拾ったゴミと自分の足元の写真を撮って「#あしもとから」をつけてSNSで投稿する。誰でも気軽に取り組めるので、ぜひ皆さんも一緒に取り組もう。

Patagonia横浜・関内ストア

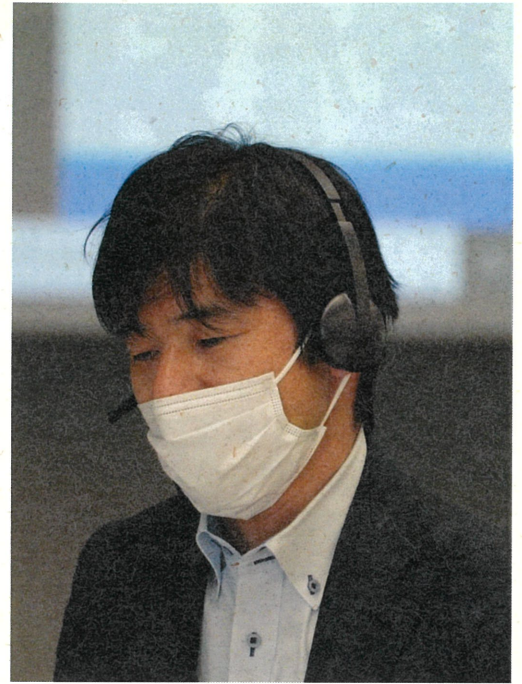
パタゴニア横浜・関内ストアで行われている「Zero Waste（ゼロウェイスト）」の活動についてご講演いただいた。Zero Wasteとは、ゴミを出さない・ゴミにしない（リサイクルする）という活動モデルである。ゴミ問題に関心を持った一人のスタッフの働きかけがきっかけで、様々なZero Waste活動が始まった。出たゴミの点検、備品の見直し、備品に値段を記載・置き場所の確定（最後まで備品を使えるように）、消耗品（レシートなど）の梱包の見直し・不要な部分（レシートロールを一つ一つ包んでいたビニール袋など）の廃止、また日本支社全体でレジ袋の廃止など。大切なことは、一人ひとりが楽しみながらZero Wasteを学び、実践していくこと。それは豊かなライフスタイルを育むことにもつながる。



松本安生

神奈川大学 人間科学部 人間科学科 教授

「環境配慮行動モデル」についてご講演いただいた。環境配慮行動モデルとは、人が環境に配慮した行動をなぜするのか、なぜしないのかを、人間の心理、行動の面から「集会的防護動機モデル」、「環境配慮的行動と規定因との要員連関モデル」、「心理プロセスモデル」の三つのモデルに分類したものである。大学生を対象にアンケートを取った結果、6割近くがこのモデルに当てはまることがわかった。また、国籍によっても環境への配慮の度合いに違いがあり、環境配慮行動に関連する要因には、性別や年齢、国籍、社会関係資本などの社会的環境、価値観など様々なものがある。環境配慮モデルを知ることは、どうすれば人々に、環境問題に取り組んでもらうことができるのかを考える上で、非常に重要である。また、このような要因を踏まえたうえで、自分や自分のまわりの人たちがどのようなことができるのか考えていってほしい。

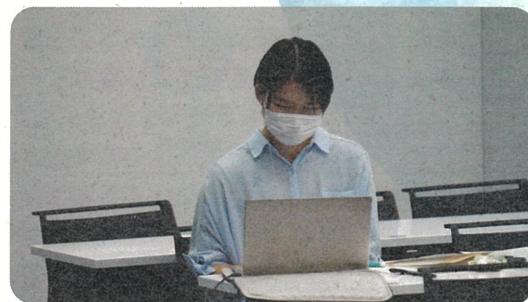
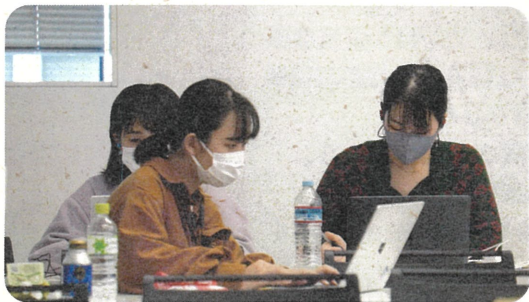


活動成果

このオンライン講演会は、LUCHARISにとって初の大きなイベントであり、企画をするところから、講演者の選定・依頼・打合せ、宣伝チラシの作成、SNS等での集客、機器の準備等、当日の運営までメンバーのみならず協力し、成し遂げることができた。

講演会イベントには約40名の申し込みをいただき、当日は25名程度の方がリアルタイムで参加してくれた。イベント参加者からLUCHARISの運営に対して、「初めてとは思えないくらいスムーズな進行だった」というお褒めの言葉をいただき、講演内容に関して「環境問題を自分事として考えるきっかけになった」「身近な取り組みが聞けて役立った」との声もいただけて、目的である実践のきっかけをつくるということの達成ができ、嬉しく感じた。

グループディスカッションの時間では、参加者同士で意見交換ができ、自分が日ごろから行っている取り組みを伝えたり、他の人の考え方や活動を聞いたりし、モチベーションの向上を図れたと思う。一方で、「素晴らしい三組のゲストのお話を聞く機会があり、参加者とも交流できるイベントだったので、もっと多くの人に参加してほしい」という声もあった。今後に向けた反省として、LUCHARISの知名度を上げ、より多くの人に興味を持ってもらえる魅力的な企画をする必要があると思った。



私たちの今後

Lucharisはまだ立ち上げて間もない学生団体だが、今回のイベントでたくさんの人に私たちのことを知ってもらえたと思う。今後、環境問題だけに限らず、社会問題や地球規模課題、メンバーの持つ問題意識の解決に向けて行動、イベント企画等していきたい。

月一のゴミ拾い活動や、社会問題を学べる定期的なSNSの発信を続けていく。現在は、NPO法人アークシップさんのゴミ拾いを通じて多様な人々とのコミュニケーションをとり、街をクリーンにする「まるごみ神奈川」の活動にコラボして取り組んでいる。2022年後期には、学生と企業を橋渡しする企画をLucharisが担当する予定。

私たち学生団体Lucharisは、様々な社会問題や地球規模課題に対して、メンバーのやりたいこと、解決したいことをみんなで応援し、支え、実行する場所になりたいと考えている。これからもそのような想いを持って活動を続けていきたい。



バナナペーパー紹介

バナナペーパーとは、世界の森林や野生動物の減少などの環境問題と、途上国の貧困問題や女性の自立支援といった社会問題の両面を解決したいという想いで2011年に事業が始まりました。SDGSの17目標すべてにつながっている日本初のフェアトレード認証の紙です。

SNS

活動報告や社会問題などについて情報発信しています。

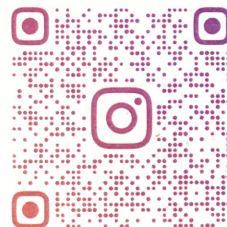


バナナペーパー：世界の森林や野生動物の減少などの環境問題と、途上国の貧困問題や女性の自立支援といった社会問題の両面の解決に向けて 2011 年より事業が始まり、SDGs17 目標のすべてにつながっている日本初のフェアトレード認証紙。

FSC®認証：持続可能な森林活用・保全を目的として誕生した、「適切な森林管理」を認証する国際的な制度。

GP 認定：印刷の業界団体である「日本印刷産業連合会」の自主基準に基づいた、印刷工場の環境負荷低減への取り組みと、その工場で作られた印刷製品を認定する制度。

グリーン電力認証：グリーン電力認証が適用された印刷機で印刷されています。



LUCHARIS2021



随時メンバー募集中です。

ご興味ある方は気軽にお声がけください。
待ってま〜す！